

牛久愛和総合病院

2024年度 臨床研修プログラム冊子



医療法人社団 常仁会
牛久愛和総合病院
<http://www.jojinkai.com>

【目次】

研修プログラムの特色.....	3
臨床研修の目標.....	3
EV：評価(全科目共通).....	3
プログラム責任者.....	4
臨床研修を行う分野並びに当該分野ごとの研修期間及び	
協力型臨床研修病院と臨床研修協力病院.....	4
協力型病院と協力施設.....	9
研修医の指導体制.....	9
診療科名：総合診療科.....	10
診療科名：脳神経内科.....	11
診療科名：消化器内科.....	12
診療科名：呼吸器内科.....	13
診療科名：循環器内科.....	14
診療科名：血液内科.....	15
診療科名：糖尿病代謝内科.....	16
診療科名：腎臓内科.....	17
診療科名：感染症内科.....	18
診療科名：外科・消化器外科.....	19
診療科名：呼吸器外科.....	20
診療科名：脳神経外科.....	21
診療科名：整形外科.....	22
診療科名：救急医療科.....	23
診療科名：小児科.....	24
診療科名：産婦人科.....	25
診療科名：精神科.....	26
診療科名：地域医療.....	27
診療科名：麻酔科.....	28
診療科名：皮膚科.....	29
診療科名：泌尿器科.....	30
診療科名：形成外科.....	31
診療科名：眼科.....	32
診療科名：耳鼻咽喉科.....	33
診療科名：病理診断科.....	34
診療科名：放射線科.....	35
研修医の募集定員並びに募集及び採用の方法.....	36
研修医の処遇に関する事項.....	36
臨床研修プログラム時間割.....	37

牛久愛和総合病院臨床研修プログラム要項

1. 研修プログラムの特色

牛久愛和総合病院は地域の中核的な病院として、救急医療・予防医療・高齢者医療の総合医療を重視し、特に救急医療にては救急車、救急患者への速やかな対応を図っている。コメディカル（薬剤師、検査技師、放射線技師）も 24 時間の勤務体制をとり、検体検査、CT、MRI、血管撮影などの緊急検査は常に可能ですし、HCU、手術室は必要なときに何時でも使用可能にしております。牛久愛和総合病院の臨床研修の初期はプライマリーケアを重視し、man to man方式で研修を行います。初期研修終了後は各専門領域での研修に入りますが、研修中は指導医と常に相談できる体制をとっております。

2. 臨床研修の目標

牛久愛和総合病院は、地域に密着した中核病院として、救急、予防、高齢者の医療を通じ、地域の皆様の医療、福祉に役立つことを理念として日常の診療を行っている。牛久愛和総合病院の臨床研修の中でプライマリーケアの基本的な診療能力を身につけ、将来の高度医療への研修に備える。医療に対する社会的ニーズを認識する意識を高め、他人の立場でものを見ることの出来る優れた人格と教養のある医師として成長する基盤を身につけることを目標とする。また、以下の三点については**全科共通の全体目標**とする。

- ・ Common disease の基本的な初期診療が出来る。
- ・ 当該科における必要不可欠な知識と技能を習得する。
- ・ 当該科に係る他職種について理解尊重し、連携を図りながらチーム医療を実践出来る。

3. EV：評価（全科共通）

①指導医による評価

- ・ EPOC 及びレポート等を用いて評価する。
また、現行の評価表も活用し、併せて評価を行う。

②自己評価

- ・ EPOC 及び事後レポートを用いて自己評価を行う。

③研修医による評価

- ・ 研修医が EPOC を用いて各診療科について全体的（指導内容・研修環境）を評価する。
また、研修医は評価表を用いて指導医を評価する。

4. プログラム責任者

藤縄 学

5. 臨床研修を行う分野並びに当該分野ごとの研修期間及び協力型臨床研修病院と臨床研修協力施設

基幹型病院：牛久愛和総合病院

協力型病院：東邦大学医療センター大森病院・大橋病院・佐倉病院（選択科目）

東京女子医科大学付属足立医療センター（小児科・救急科・選択科目）

筑波大学附属病院（選択科目）、筑波学園病院（小児科・産婦人科）

総合母子保健センター愛育病院（産婦人科）、みやぎきホスピタル（精神科）

東京医科大学茨城医療センター（内科・外科・小児科・産婦人科、選択科）

東京女子医科大学病院(選択科目)

宮崎医療センター病院（内科・外科・選択科）

つくばセントラル病院（産婦人科）

茨城県立医療大学付属病院(地域医療・往診研修)

協力施設：神立病院(地域医療・往診研修)

さくら台土肥クリニック（地域医療）

介護老人保健施設春秋園（選択・地域医療）

	診療科	研修期間	研修施設
必修科目	内科	24 週以上	牛久愛和総合病院 東京医科大学茨城医療センター 宮崎医療センター病院
	救急	12 週以上	牛久愛和総合病院 東京女子医科大学付属足立医療センター
	地域医療	4 週以上	さくら台土肥クリニック 神立病院 茨城県立医療大学付属病院
	小児科	4 週以上	筑波学園病院 東京女子医科大学付属足立東医療センター 東京医科大学茨城医療センター
	産婦人科	4 週以上	筑波学園病院 総合母子保健センター愛育病院 東京医科大学茨城医療センター つくばセントラル病院
	精神科	4 週以上	みやざきホスピタル
	外科	8 週以上	牛久愛和総合病院 東京医科大学茨城医療センター 宮崎医療センター病院

<p>選択科目 ※基本的に 全科</p>	<p>内科、脳神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、血液内科、腎臓内科、糖尿病代謝内科、救急科</p>	<p>36 週以上 44 週未満</p>	<p>牛久愛和総合病院</p>
	<p>内科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、整形外科、放射線科、麻酔科、脳神経外科、形成外科、救急医療科、精神科、泌尿器科、周産期新生児診療部・新生科、骨盤底機能再建診療部、検査科、輸血部、病理診断科、リハビリテーション部、乳腺診療部、心臓血管診療部</p>		<p>東京女子医科大学付属足立医療センター</p>
	<p>内科、感染症、外科、消化器内科、消化器外科、循環器内科、心臓血管外科、呼吸器内科、呼吸器外科、糖尿病・代謝・内分泌センター、脳神経内科、血液・腫瘍科、膠原病科、小児外科、乳腺・内分泌外科、心療内科、腎センター、精神神経科、小児科、新生児科、脳神経外科、形成外科、整形外科、リハビリテーション科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、救命救急センター、東洋医学科、病理診断科、臨床生理機能、臨床検査部</p>		<p>東邦大学医療センター大森病院</p>

<p>選択科目 ※基本的に 全科</p>	<p>消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、膠原病リウマチ科、糖尿病・代謝・内分泌内科、小児科、外科、脳神経外科、整形外科、心臓血管外科、婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査部、救急集中治療科、形成外科</p>	<p>36 週以上 44 週未満</p>	<p>東邦大学医療センター大橋病院</p>
	<p>内科(消化器、循環器、呼吸器、糖内代、腎臓、脳神経内科)、外科(消化器、心臓、呼吸器、乳腺)、小児科、産婦人科、整形外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、メンタルヘルスクリニック、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査診断センター、形成外科、救急科</p>		<p>東邦大学医療センター佐倉病院</p>
	<p>内科、呼吸器内科、消化器内科、代謝内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、精神科、呼吸器外科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、総合救急センター、総合診療科</p>		<p>東京医科大学茨城医療センター</p>

<p>選択科目 ※基本的に 全科</p>	<p>内科、消化器内科、外科、消化器外科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科、麻酔科</p>		<p>宮崎医療センター病院</p>
	<p>総合診療、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎泌尿器内科、内分泌代謝・糖尿病内科、膠原病リウマチアレルギー内科、脳神経内科、血液、感染症、小児科、精神神経、皮膚、放射線診断・IVR、放射線腫瘍科、病理診断、リハビリテーション部、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺・内分泌外科、小児外科、形成外科、救急・集中治療、脳神経外科、整形、腎泌尿器外科、婦人・周産期、麻酔、耳鼻咽喉、眼</p>		<p>筑波大学附属病院</p>
	<p>保健・医療行政</p>		<p>春秋園</p>

6. 協力型病院と協力施設

種別	医療機関名	所在地	研修科目	研修実施責任者・指導医
協力型病院	茨城県立医療大学付属病院	茨城県稲敷郡	地域医療	河野 了
協力型病院	総合母子保健センター愛育病院	東京都港区	産婦人科	山下 隆博
協力型病院	筑波学園病院	茨城県つくば市	小児科,産婦人科	齋藤 重行
協力型病院	つくばセントラル病院	茨城県牛久市	産婦人科	金子 剛
協力型病院	筑波大学附属病院	茨城県つくば市	選択科目	瀬尾 恵美子
協力型病院	東京医科大学茨城医療センター	茨城県稲敷郡	内科,外科,小児科,産婦人科,選択科目	屋良 昭一郎
協力型病院	東京女子医科大学病院	東京都新宿区	選択科目	坂井 修二
協力型病院	東京女子医科大学病院附属足立医療センター	東京都足立区	小児科,救急科,選択科目	小森 万希子
協力型病院	東邦大学医療センター大橋病院	東京都目黒区	選択科目	高橋 啓
協力型病院	東邦大学医療センター大森病院	東京都大田区	選択科目	酒井 謙
協力型病院	東邦大学医療センター佐倉病院	千葉県佐倉市	選択科目	松岡 克善
協力型病院	宮崎医療センター病院	宮崎県宮崎市	内科,外科,選択科目	宇都 浩文
協力型病院	みやざきホスピタル	茨城県稲敷市	精神科	末木 亮嗣
協力施設	神立病院	茨城県土浦市	地域医療	平塚 圭介
協力施設	介護老人保健施設春秋園	茨城県牛久市	地域医療	高橋 元
協力施設	さくら台土肥クリニック	茨城県牛久市	地域医療	土肥 敏樹

7. 研修医の指導体制

牛久愛和総合病院での研修は、常に指導医と相談できる体制にあり、man to man体制ができている。研修初期には指導医は、研修医に家庭教師的に接し、プライマリー研修が進むに従い段々と技術的な研修に入り、能力に応じ高度な技能の習得が可能な体制をとっている。なお、病棟では主治医の指導下に副主治医として、当直では指導医の当直日に副当直医として勤務する。

8. 各科カリキュラム

総合診療科

<全体目標>

各診療科に関連する総合的横断的な臨床能力、患者に係る様々な問題点（心理的・社会的）を含めた全体像を把握する能力を養う為、様々な患者の症候や疾患の経験を通じ、初期臨床研修医にとって必要な基本的な問題解決能力、診療の手技等の全般的対応について習得する。

<個別目標>

- ・問診、全身的な身体観察が出来る。
- ・様々な症候について診断をすることが出来る。
- ・患者について身体的のみならず、心理的社会的な背景も把握することが出来る。
- ・様々な患者に対し、重症度及び緊急度を判断できる。
- ・他科に係る横断的な診療を行う為、多職種連携の上、的確なコミュニケーションが出来る。

<LS：方略>

- ・外来で上級医の下、患者の診察及び介助を行う。
- ・入院患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応する為に、幅広い内科的疾患に対する診療を行う病棟研修を行う。
- ・研修する疾患が特定の領域や疾患及び年齢に、極端に偏らない様に配慮する。
- ・週1回の内科カンファレンスを行う。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、胸痛、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ

<経験できる疾患>

高血圧、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、COPD、急性胃腸炎、消化性潰瘍、胆石症、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、糖尿病、脂質異常症

脳神経内科

<全体目標>

神経疾患についての理解を背景に、代表的な疾患の病態を把握し、実際に携わることにより、プライマリケアに必要な知識と技術を習得する。

<個別目標>

- ・神経疾患についての理解を深め、神経学的所見を正しく診察し、所見を記載する。
- ・脳神経内科疾患に特徴的な病歴を聴取出来る。
- ・神経疾患の診療に必要な臨床検査について理解し、的確に選択したうえでその結果を正しく解釈し評価出来る。
- ・神経疾患の代表的疾患の診断から治療という一連の流れを経験する。(基本的治療法の適応を決定・実施)
- ・病歴や身体的所見をもとに、診断へのアプローチの為の知識や技術を身につける。
- ・患者や家族との適切なコミュニケーションがとれる。
- ・患者側の心理的社会的背景を理解し、プライバシーへの配慮が出来る。

<LS：方略>

- ・外来診療を通じ、神経疾患の初期対応を習得する。
- ・入院診療（病歴聴取・診察・検査治療計画・診療録の記載）を通じ、神経疾患の治療に必要な知識及び技術を経験する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、興奮・せん妄、抑うつ、終末期の症候

<経験できる疾患>

脳血管障害、認知症、高血圧、肺炎、急性上気道炎、糖尿病、脂質異常症

消化器内科

<全体目標>

消化器内科の代表的な疾患の病態を把握し、実際に診療に携わる事によりプライマリケアに必要な基礎知識と技術を修得し、消化器（消化管・肝臓・膵胆道）の解剖・生理・機能を理解したうえで診療計画を立て、実地診療を行えるようにする。

<個別目標>

- ・消化器の代表的疾患の診断から治療という一連の流れを経験する。
- ・各種検査（内視鏡・超音波・腹部CT・MRI・造影検査）についての理解を深める。
- ・消化器の解剖についての理解を深める。
- ・内科の診療に必要な基本的手技を学習する。
- ・病歴や身体所見をもとに、診断へのアプローチの為の知識や技術を身につける。

<LS：方略>

- ・外来及び入院診療（病歴聴取・診察・検査治療計画・診療録の記載）を通じ、消化器診療に必要な知識及び技術を経験する。
- ・診断及び治療の為の各種検査（病歴聴取・診察・検査治療計画・診療録の記載）に参加し、検査手技と治療内容について知識を深める。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）

<経験できる疾患>

認知症、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌

呼吸器内科

<全体目標>

呼吸器領域の代表的な疾患の病態を把握し、実際に診療に携わる事により、呼吸器疾患の診療において必要な基礎知識と技術を修得する。

<個別目標>

- ・呼吸器疾患についての診断から治療という一連の流れを経験する。
- ・胸部 X 線、CT 等の読影方法を身につける。
- ・呼吸器疾患の診療に必要な基本的手技を学習する。
- ・病歴や身体所見をもとに、診断へのアプローチの為の知識や技術を修得する。
- ・呼吸機能検査を通じ、呼吸生理についての知識を学ぶ。

<LS：方略>

- ・外来での研修を通じ、呼吸器領域の代表的な疾患の診断法及び治療法を学ぶ。
- ・入院患者の問診及び身体所見の把握、検査の適応や内容を理解する。
- ・胸部 X 線、CT 等を指導医と一緒に読影し、読影について学ぶ。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、終末期の症候

<経験できる疾患>

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、COPD、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、糖尿病、脂質異常症、うつ病

循環器内科

<全体目標>

代表的な循環器疾患の病態を把握し、実際に診療に携わる事により、循環器疾患の診療において必要な基礎知識と技術を修得する。

<個別目標>

- ・代表的な循環器疾患について診断から治療という一連の流れを経験する。
- ・心臓カテーテル検査の適応理解、検査結果の理解、PCI等の適応を理解し説明できる。
- ・循環器疾患の診療に必要な基本的手技を学習する。
- ・病歴や身体所見をもとに、診断へのアプローチの為の知識や技術を修得する。
- ・循環器慢性疾患の管理について学習する。

<LS：方略>

- ・外来での研修を通じ、循環器患者の初期診療及び治療を学ぶ。
- ・入院診療（問診・診察・検査治療計画・診療録の記載）を通じ、循環器内科の診療に必要な知識と技術を経験する。
- ・心臓カテーテル検査において、指導医の下で助手の業務を経験する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、発熱、頭痛、めまい、意識障害・失神、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄

<経験できる疾患>

認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺炎、急性上気道炎、急性胃腸炎、腎不全、糖尿病、脂質異常症

血液内科

<全体目標>

造血器疾患の診断及び治療を経験する過程において、プライマリケアに必要な基礎知識及び技術を修得する。造血器疾患のみならず、血液異常を正確に把握してその背景となる病態を理解する事が内科疾患へのアプローチとして重要である事を学ぶ。

<個別目標>

- ・疾患患者の問診、診察を的確に行う事が出来る。
- ・疾患患者の診断、病態把握に必要な臨床検査及び画像検査を把握し、それらについて説明出来る。
- ・造血不全症、造血器腫瘍の診断及び治療について理解し、指導医の下で実践する。
- ・造血器疾患の支持療法（輸血療法・抗菌療法等）の適応を判断し、指導医の下で実践する。

<LS：方略>

- ・外来での研修において、患者の診療（問診・診断・治療）を通じ、プライマリケアに必要な基本的知識及び技術を修得する。
- ・指導医と共に入院患者の診療（問診・診断・治療計画立案・治療・支持療法）を経験・実践し、内科的治療の基本的技能を習得する。
- ・週1回の内科カンファレンスを行う。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、発熱、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、終末期の症候

糖尿病代謝内科

<全体目標>

糖尿病及び内分泌疾患診療の基本を習得し、患者に寄り添った医療を提供出来る。

<個別目標>

- ・糖尿病の成因、分類、病態、診断法を理解し、糖尿病の診断と病型診断が出来る。
- ・糖尿病合併症の病態、症状を理解し診断が出来る。
- ・的確な問診により正確な身体所見が取れる。
- ・患者情報を的確に評価し、検査及び治療計画が立てられる。
- ・インスリン療法について学び、適切に行える。

<LS：方略>

- ・実際の症例を通し、上級医とのカンファレンスにより治療を決定し、上級医の指導の下で患者への指導及び教育を行う。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、体重減少・るい瘦、発熱、もの忘れ、意識障害・失神、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、終末期の症候

<経験できる疾患>

脳血管障害、認知症、心不全、高血圧、肺炎、急性上気道炎、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、糖尿病、脂質異常症、うつ病

腎臓内科

<全体目標>

腎障害時の病態生理を十分に理解したうえで、代表的な腎疾患の病態を把握し、実際の診療に携わることにより、腎臓病全般の対応に必要な基礎知識と技術を修得する。

<個別目標>

- ・腎障害時の病態生理について理解を深める。
- ・代表的腎疾患の診断から治療という一連の流れを経験する。
- ・腎疾患治療に必要な基本的手技を学び習得する。
- ・腎疾患とその周辺疾患による諸症状を理解し、それらに対する診察・検査・診断・治療について説明できる。
- ・透析についての種類とその原理、適応等について説明できる。
- ・内シャント手術、腹膜透析カテーテル挿入術、腎生検などについては、指導医の下で参加し、これらの基本について理解し説明出来る。

<LS：方略>

- ・外来での問診等を通じ、どのように診断され、検査計画・治療方針・入院がなされるのかを経験する。
- ・入院診療（問診・診察・検査治療計画・診療録の記載）を通じ、腎疾患とその周辺疾患の診療に必要な基本的知識と技術を経験する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、体重減少・るい瘦、発熱、呼吸困難、腰・背部痛、関節痛、排尿障害（尿失禁・排尿困難）

<経験できる疾患>

心不全、高血圧、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、糖尿病、脂質異常症

感染症内科

<全体目標>

細菌を中心とした微生物学の基礎及び培養検査、炎症所見の読み方等の感染症学について、診療を通じて学ぶ。また、抗菌薬適正使用の基礎知識を習得する。

<個別目標>

- ・グラム染色、培養などの微生物学検査の重要性と意義を理解する。
- ・各種炎症反応や画像所見等について、臨床経過に結びつけることが出来る。
- ・感染症診断の為に診断プロセスを理解し、早期診断が出来る。
- ・適切な抗生薬を選択し、その用法や容量の設定が出来る。

<LS：方略>

- ・外来での研修においては、救急外来での感染症救急患者の対応方法についても学ぶ。
- ・入院診療においては、各科で担当する感染症は研修診療科の上級医の下で研修を行う。
- ・耐性菌感染症等については、感染症医の指導の下で各治療方針について学ぶ。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

外科・消化器外科

<全体目標>

外科・消化器外科領域の代表的な疾患の病態の特性について理解し、患者側と医師の良好な関係構築に努め、基本的な外科診療に必要な能力を修得する。

<個別目標>

- ・患者のバイタルサインや栄養状態など、全身状態について判断出来る。
- ・正常所見と異常所見及び緊急性の有無について判断が出来る。
- ・基本的な手技の重要性を認識し、患者の状態に配慮した手技を身につける。
- ・胃管挿入及び管理が出来る。
- ・輸液、輸血、栄養管理が出来る。
- ・創傷やドレーンなどの局所管理が出来る。
- ・皮膚縫合が実施出来る。
- ・基本的な検査項目を理解し、オーダーする事が出来る。

<LS：方略>

- ・病棟での診療を通じ、外科消化器外科の患者管理技能について学ぶ。
- ・外科消化器外科の手術に参加し、助手として実際の手技を経験する。
- ・上級医について外来患者の診察及び介助を経験し、初診患者の疾患鑑別を実践する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、体重減少・るい瘦、黄疸、発熱、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、興奮・せん妄、終末期の症候

<経験できる疾患>

急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、胆石症、大腸癌

呼吸器外科

<全体目標>

呼吸器外科の診療に必要な基本的診断・検査・手術手技を経験し、その基礎を習得する。

<個別目標>

- ・患者及びその関係者からの問診を通じ、呼吸器外科的疾患の症候を把握する事が出来る。
- ・代表的な諸疾患の診断を行い、基本的な治療方針を立てることが出来る。
- ・代表的な諸疾患の手術方法、術後合併症等について説明を行う事が出来る。
- ・代表的な諸疾患の術前術後管理を理解し、手術予後について説明を行う事が出来る。

<LS：方略>

外来及び入院診療を通じ、呼吸器領域の診療に必要な知識と技術を経験する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、体重減少・るい瘦、発熱、意識障害・失神、胸痛、呼吸困難、吐血・喀血、熱傷・外傷、腰・背部痛、運動麻痺・筋力低下、興奮・せん妄、抑うつ、終末期の症候

<経験できる疾患>

肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、COPD、高エネルギー外傷・骨折

脳神経外科

<全体目標>

代表的な脳神経外科疾患の診断・治療を行う為、必要な脳神経疾患に関する基礎的な知識と治療に関する技術・態度を習得する。

<個別目標>

- ・代表的な脳神経外科疾患について、診断から治療までのプロセスを経験する。
- ・指導医と共に基本的な脳神経外科手術手技を実施する。

<LS：方略>

- ・代表的な脳神経疾患の典型的な画像（CT・MRI・脳血管撮影等）について、読影を学ぶ。
- ・入院診療を通じ、身体所見及び神経症状の把握を行う。
- ・術前術後の管理について理解する。
- ・脳神経外科外来及び救急外来患者の診察・検査の介助を経験する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、運動麻痺・筋力低下、興奮・せん妄、終末期の症候

<経験できる疾患>

脳血管障害、認知症

整形外科

<全体目標>

正常な骨、筋（腱）、神経の解剖生理及び関節の機能を理解する事により、運動器にもたらされる症候疾患を把握し、診療に携わる事により、プライマリケアに必要な知識と技術を修得する。

<個別目標>

- ・ 正常な骨、筋（腱）、神経、血管の機能解剖、生理、生体力学を理解する。
- ・ 整形外科の代表的な疾患の診断から治療という一連の流れを経験する。
- ・ 整形外科の診察に必要な基本的手技を学習する。
- ・ 整形外科に関する予防医学の知識を習得する。
- ・ 疾患に対する画像等（レントゲン・CT・MRI等）を適切に依頼し、結果を正しく判断して診断及び治療に役立てられる。

<LS：方略>

- ・ 外来研修を通じ、整形外科の一般的な疾患に関する問診、理学所見の方法、画像・生理検査のオーダー方法を学ぶ。
- ・ 得られた問診、理学所見、検査結果をもとに、診断から治療に至るプロセスを学習する。
- ・ 入院診療（問診、診察、検査治療計画、診療録の記載）を通じ、整形外科に必要な知識と技術を経験する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下 <経験できる疾患>
高エネルギー外傷・骨折

救急医療科

<全体目標>

救急患者対応に際し、基本的な救急蘇生及び集中治療の知識を身につけ、多様な症例を体験し、将来にわたって実際の救急医療現場に必要な判断力、洞察力、技術、倫理観を習得する。

<個別目標>

- ・災害医療、医療安全、感染管理、救急・集中治療における終末期等について、必要な知識と技術を身につける。
- ・BLS、ACLS等、救急医療に関する教育コースを積極的に受講する。
- ・救急で経験できる症候、外因、愁訴、痛み等について知る。
- ・全身を診ることにより、バイタルサインを正確に把握し、意識状態を評価できる。
- ・緊急性を考慮し、基本的診察（視診・聴診・触診）を遅滞なく実施出来る。
- ・ショック、呼吸困難、意識障害について正しく理解し説明できる。

<LS：方略>

- ・外来で上級医の下、患者の診察及び介助を行う。
- ・入院患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応する為に、幅広い内科的疾患に対する診療を行う病棟研修を行う。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔吐、腹痛関節痛、排尿障害、終末期の症候

<経験できる疾患>

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、COPD、急性胃腸炎、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症・大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全

小児科

<全体目標>

小児科特有の外科疾患についての理解を背景に、代表的な疾患の病態を把握し、実際の診療に携わることにより、診断・手術・実際に携わることにより、診断・手術・など管理について、必要な知識と技術を修得する。

<個別目標>

- ・小児科の代表的疾患の診断から治療への一連の流れを説明することが出来る。
- ・小児科の診療に必要な基本的な手技を行う事が出来る。
- ・病歴や身体所見をもとに、診断へのアプローチを行う事が出来る。

<LS：方略>

- ・外来での研修を通じ、小児科の一般的な診断法や治療法を学ぶ。
- ・入院診療を通じ、小児科の診療に必要な知識と技術を経験する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

発疹、黄疸、発熱、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、呼吸困難、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、成長・発達の障害

<経験できる疾患>

肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、腎盂腎炎

産婦人科

<全体目標>

女性の一生における身体的及び生殖生理・内分泌的变化を理解し、各年代での代表的な疾患の病態を把握する。実際の診療に携わることにより、プライマリケアに必要な知識と技術を修得する。

<個別目標>

- ・女性の診療に必要な基本的手技を学習し、医師として真摯な態度を身につける。
- ・分娩に立会い、生命誕生の感動を体験し、正常分娩時の対応を経験する。
- ・異常分娩への対応や処置を経験する。
- ・ホルモン分泌異常や感染症、婦人科腫瘍など女性特有の疾患について経験し、その理解を深める。

<LS：方略>

- ・外来での研修を通じ、診断に至る方略と治療法の立案について学ぶ。
- ・入院診療を通じ、女性の診療に必要な知識と技術を経験する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

腹痛、妊娠・出産、終末期の症候

精神科（みやざきホスピタル）

<全体目標>

精神科の基本的な臨床能力（知識、技能、情報収集能力、総合判断力）を習得し、医師として望ましい姿勢を身につける。

<個別目標>

- ・患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立できる。
- ・患者の問題を把握し、問題解決型の思考を行ない、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。
- ・主治医として症例を担当し、診断（操作的診断法を含む）、状態像の把握と重症度の客観的評価法を修得する。
- ・向精神薬（抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬等）を適切に選択できるように臨床精神薬理学的な知識を学び、臨床場面で自ら実践できるようにする。同時に適切な精神療法、心理社会療法（生活療法）について実践する。頭部CTの画像・脳波等の判読が出来る。
- ・家族からの病歴聴取、病名告知、疾患・治療法の患者家族への説明を実践する。
- ・精神保健福祉法を理解する。
- ・社会復帰や地域支援体制を見学等を通し経験する。
- ・身体合併症を持つ精神疾患症例や精神症状を呈する身体疾患症例を体験し、基礎的なコンサルテーションリエゾン精神医学を修得する。
- ・心の病に悩む人を理解し共感を持ち、人間尊重の基礎理念を身につける。

<LS：方略>

- ・上級医のもと外来での研修を通じ、病歴聴取から診断に至る方略と治療法の立案について学ぶ。
- ・上級医のもとで入院診療を通じ、入院患者を受け持ち、様々な患者について広く学ぶ。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

もの忘れ、興奮・せん妄、抑うつ、終末期の症候

<経験できる疾患>

認知症、気分障害、統合失調症、依存症、うつ病

地域医療

<全体目標>

患者の立場に立った地域医療を実践する為、基本的な臨床能力（知識、技能、情報収集能力、総合判断力）を適宜応用し、医療従事者として謙虚な姿勢を身につける。

<個別目標>

- ・ 地域医療について理解できる。
- ・ 患者の日常生活や地域特性を理解した診療が出来る。
- ・ 中小病院、診療所の地域医療における役割と特徴を学ぶ。
- ・ 訪問診療を経験し、在宅医療の重要性について学ぶ。

<LS：方略>

- ・ 初診および再診患者の問診、身体観察、アセスメント、検査治療計画立案を学ぶ。
- ・ 指導医の下で訪問診療を行う。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<研修先>

さくら台土肥クリニック・神立病院・茨城県立医療大学附属病院

麻酔科

<全体目標>

- ・麻酔に関する基本的な知識と技術を修得する。
- ・担当症例を通じ、術前に患者の全身状態のリスク評価、依存症の管理の手法を学ぶ。
- ・術中の麻酔管理を通じ、呼吸管理、循環管理、疼痛管理について学ぶ。
- ・マスク換気、気管挿管、人工呼吸など、気道・呼吸管理に関する知識と技術を身につける。
- ・生体情報モニターを読み、患者の全身状態を把握し、安全な麻酔管理が出来る。

<個別目標>

- ・各種麻酔法の特徴と適応及び合併症を理解し、患者に説明出来る。
- ・術前患者の全身状態を把握し、麻酔・手術を行う上での問題点を抽出できる。
- ・生体情報モニターの示す情報を正しく理解し、測定値を評価することができる。
- ・麻酔に必要な機器及び薬剤を把握し、的確に準備が出来る。
- ・周術期の呼吸管理に必要な知識を学び、適切な人工呼吸管理を行うことが出来る。
- ・麻酔から覚醒していく患者の状態を把握し、予想される合併症に留意しながら安全に患者を帰室させることが出来る。

<LS：方略>

- ・指導医とともに術前回診を行い、十分な情報収集により患者の全身状態を把握し、患者側に対して麻酔方法とリスクの説明を行う。
- ・指導医と共に、上記情報収集による麻酔計画を立案する。
- ・指導医の下、術中の麻酔管理・全身状態の管理を行う。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

嘔気・嘔吐、興奮・せん妄

皮膚科

<全体目標>

- ・ 代表的な皮膚疾患の診療に携わり、皮膚科の基本的治療に必要な知識と技術を修得する。
- ・ 皮膚の構造や役割及び発疹学を学び、皮疹の種類や形態を正確に捉えられる。

<個別目標>

- ・ 皮膚の構造や役割について知識を深める。
- ・ 皮膚科の代表的な疾患について診断から治療まで、一連の流れを経験する。

<LS：方略>

- ・ 外来での研修を通じ、問診、皮疹の記載法、基本的な外来処置、特殊治療、手術手技を学ぶ。
- ・ 入院診療を通じ、代表的な皮膚疾患の病態、検査、治療計画について学び経験する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

発疹、嘔気・嘔吐、興奮・せん妄

泌尿器科

<全体目標>

- ・泌尿器科疾患の病態を把握したうえで臨床に携わり、必要な知識と技術を修得する。

<個別目標>

- ・泌尿器科疾患の病態、検査、手技に関する理解を深める。
- ・病歴や身体・検査所見を基に、診断へのアプローチの為の知識や技術を身につける。
- ・泌尿器科の代表的な疾患について診断から治療まで、一連の流れを経験する。

<LS：方略>

- ・外来での研修を通じ、問診、皮疹の記載法、基本的な外来処置、特殊治療、手術手技を学ぶ。
- ・入院診療を通じ、代表的な皮膚疾患の病態、検査、治療計画について学び経験する。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

発熱、腹痛、腰・背部痛、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、終末期の症候

<経験できる疾患>

腎盂腎炎、尿路結石、腎不全

顕微鏡（マイクロスコープ）により鼓膜が観察できる。

<LS：方略>

形成外科

<全体目標>

- ・ 形成外科に関する基礎知識と必要な手技を学ぶ。
- ・ 形成外科的な考え方、診療方法を理解し、基本的な処置、皮膚縫合手技を習得する。

<個別目標>

- ・ 創傷治癒に関する基本的な考え方を理解する。
- ・ 褥瘡の発生について学び、的確な処置が出来る。
- ・ 形成外科的な真皮縫合法、皮膚縫合法を習得する。
- ・ 手術を経験し、術後の全身管理を適切に行える。
- ・ 熱傷において、深度と範囲の所見をとり、的確な処置が出来る。

<LS：方略>

- ・ 外来での研修を通じ、形成外科疾患及び、治療法の選択を学ぶ。
- ・ 入院診療を通じ、創傷の治癒過程、術後全身管理を学ぶ。
- ・ 手術に参加し、形成外科的な手技を学ぶ。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

熱傷・外傷

眼科

<全体目標>

- ・眼科的な生理、解剖、病態知識を把握する。
- ・代表疾患における診断・治療の知識・技術を修得する。

<個別目標>

- ・代表的疾患の診断技術を身につける。
- ・代表的疾患の治療判断を行う。
- ・細隙灯顕微鏡による検査ができる。
- ・倒像鏡による眼底検査ができる。

<LS：方略>

- ・外来での研修を通じ、眼科の一般的な評価、診断、治療を学ぶ。
- ・入院診療を通じ、眼科的な知識と技術を学ぶ。
- ・顕微鏡手術の基礎的な技術を身につける。

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

視力障害

耳鼻咽喉科

<全体目標>

- ・耳鼻咽喉科に必要な基礎知識と技術を習得する。

<個別目標>

- ・病歴や身体所見をもとに、診断へのアプローチの為の知識や技術を身につける。
- ・代表的疾患の治療判断を行う。
- ・耳鼻咽喉科外来での診療の流れが把握できる。
- ・耳鼻咽喉科領域の一連の視診ができる。
- ・内視鏡（ファイバースコープ）により咽頭、喉頭が観察できる。
- ・内視鏡（ファイバースコープ）により鼻腔が観察できる。
- ・内視鏡（ファイバースコープ）により鼓膜が観察できる。
- ・顕微鏡（マイクロスコープ）により鼓膜が観察できる。

<LS：方略>

- ・外来での研修を通じ、耳鼻咽喉科患者の診療に必要な知識と技術を修得する。
- ・外来での研修を通じ、耳鼻咽喉科患者の診療に必要な知識と技術を修得する

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

<経験できる症候>

めまい

病理診断科

<全体目標>

- ・ 病理所見から病理診断に至る思考過程を理解することができる。
- ・ 病理診断に必要なかつ十分な切り出しをすることができる。
- ・ 免疫染色について基本を理解し、目的・特徴を挙げ、適応を判断し、病理診断に免疫染色を使用することができる。

<個別目標>

- ・ 病理所見を的確に把握することができる。
- ・ 病理所見から病理診断に至る思考過程を理解することができる。
- ・ 病理診断に必要なかつ十分な切り出しをすることができる。
- ・ 免疫染色について基本を理解し、目的・特徴を挙げ、適応を判断し、病理診断に免疫染色を使用することができる。
- ・ 病理標本作製の手技が理解できる。

<LS：方略>

病理専門医の指導のもと病理診断報告書を作成する

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

放射線科

<全体目標>

読影に必要な基礎知識、解剖等を習得する。

<個別目標>

- ・ 病理所見を的確に把握することができる。
- ・ 病理所見から病理診断に至る思考過程を理解することができる。
- ・ 病理診断に必要なかつ十分な切り出しをすることができる。
- ・ 免疫染色について基本を理解し、目的・特徴を挙げ、適応を判断し、病理診断に免疫染色を使用することができる。
- ・ 病理標本作製の手技が理解できる。

<LS：方略>

病理専門医の指導のもと病理診断報告書を作成する

<EV：評価>

全科共通の評価方法（本冊子冒頭部に記載）による。

9. 研修医の募集定員並びに募集及び採用の方法

- ①募集定員 6名
- ②募集方法 公募（当院ホームページにより募集）
- ③採用方法 面接より選考 ※マッチングに参加して採用を行なう。

10. 研修医の処遇に関する事項

処遇項目	当院の処遇
①常勤又は非常勤の別	常勤
②研修手当、勤務時間及び休暇に関する事項	1年次：400,000円／月 2年次：425,000円／月 但し、選択科目を協力型病院で研修する場合は200,000円／月とする 時間外手当 法定による 当直手当 10,000円／回 日直手当 20,000円／回 (いずれも税込) 賞与：あり 勤務時間：週5日勤務（37.5時間） 休憩時間：1時間／日 休暇：原則、日曜、他1日及び祝日 有給休暇（1年次10日、2年次11日） 夏季休暇：有、年末年始：有
③時間外勤務及び当直に関する事項	時間外勤務：有 当直勤務：有（月4回程度）
④研修医のための宿舎及び病院内の個室の有無	宿舎：単身用 病院内の個室：有
⑤社会保険・労働保険（公的医療保険、公的年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険）に関する事項	公的医療保険：協会けんぽ 公的年金保険：厚生年金保険 労働者災害補償保険：有 雇用保険：有
⑥健康管理に関する事項	健康診断：年2回
⑦医師賠償保険に関する事項	病院としての加入：有 個人に対する病院の加入：無 個人加入：任意とするが、加入が望ましい
⑧外部の研修活動に関する（学会、研究会等への参加の可否及び費用負担の有無）	参加の可否：可 費用負担の有無：無
⑨アルバイトに関する方針	当院雇用契約期間内は禁止

牛久愛和総合病院 臨床研修プログラム時間割

◆研修プログラム責任者 : 藤縄 学

1年次 (順不同)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科						救急			外科		小児

2年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
産婦	精神	地域医療	選択科								

【プログラムの特徴】

必修科目:内科6ヶ月、救急3ヶ月、外科2ヶ月、小児・産婦・精神・地域医療1ヶ月

選択科目:その他の期間はどの科も自由に期間を設定可能。院内で希望する研修科がない場合は、

協力施設等である東邦大医療センター大森病院、大橋病院、佐倉病院、筑波大学附属病院、東京医科大学茨城医療センターなどでの研修も可能。

- ※ 選択科目は、研修病院群の診療科から自由に選択できる。
- ※ 内科 : 東京医科大学茨城医療センターの協力を得て行う。
- ※ 外科 : 東京医科大学茨城医療センターの協力を得て行う。
- ※ 救急医療科 : 東京女子医科大学附属足立医療センターの協力を得て行う。
- ※ 精神科 : みやざきホスピタルの協力を得て行う。
- ※ 小児科 : 筑波学園病院、東京女子医科大学附属足立医療センター、東京医科大学茨城医療センターの協力を得て行う。
- ※ 産婦人科 : 筑波学園病院、愛育病院、東京医科大学茨城医療センター、つくばセントラル病院の協力を得て行う。
- ※ 地域医療 : さくら台土肥クリニック・神立病院・茨城県立医療大学附属病院の協力を得て行う。